

第一製薬様における SAP on PRIMEPOWER導入事例

User Case: Daiichi Pharmaceutical (SAP on PRIMEPOWER)

あらまし

医薬品メーカー大手の「第一製薬株式会社様」では、2002年4月より、PRIMEPOWERをプラットフォームとするSAP R/3システムの本番運用を開始した。

このプロジェクトにおいて富士通は、「BASIS（ベース）」と呼ばれるインフラストラクチャの設計・構築・運用を担当し、社会性の高い新基幹業務システムの安定稼働を実現する高性能・高信頼なサーバ/ストレージ/ミドルウェア製品や、「生産実行システム（PP-MES）」と呼ばれるSAP R/3新機能の世界初導入を成功させた高品質なサービスを提供した。

本稿では、第一製薬様におけるSAP R/3の導入経緯やプラットフォームの選択経緯・特長などについて紹介する。

Abstract

Daiichi Pharmaceutical Co., Ltd, a leading drug company in Japan, started production operation of its SAP R/3 system using a PRIMEPOWER server platform in April 2002. For this project, Fujitsu Ltd. supported the design, construction, and operation of the BASIS infrastructure of the system. Specifically, Fujitsu supplied high-performance, high-quality server, storage, and middleware products to ensure stable operation of Daiichi Pharmaceutical's new corporate core system and help the company meet an associated social commitment for timely distribution of medicines. In addition, as part of the cooperative work between infrastructure and applications, Fujitsu provided the high-quality support necessary for Daiichi Pharmaceutical to successfully perform the world's first implementation of the Production Planning Manufacture Execution System (PP-MES) module of SAP R/3. This paper introduces the project history of the SAP R/3 system's introduction in Daiichi Pharmaceutical. It also describes the selection/evaluation processes and the notable features of the system's platform.



堀之内裕二（ほりのうち ゆうじ）
SCMソリューション事業部ERPソリューション部 所属
現在、ERPプロジェクトのSEサポートに従事。



酒井 章（さかい あきら）
産業第二統括営業部化学産業第二営業部 所属
現在、製薬業のお客様向けセールスに従事。

ま え が き

第一製薬様は、医療用医薬品・一般医薬品・動物用医薬品・医療用/食添用/飼料用原末などの製造、仕入れおよび販売を手掛ける大手医薬品メーカーである。発毛促進医薬品「カロヤンアポジカ」、鎮痛消炎剤「パテックス」、胃腸薬「センロック」などの人気商品も数多い。

第一製薬様 プロフィール

- ・ 資本金：452億4,600万円（2002年3月末現在）
- ・ 従業員数：3,758人（2002年3月末現在）
- ・ 売上高：2,722億1,400万円（2001年実績）

近年の医薬品業界は、健康保険制度の改革や外資系企業の参入などによって、一段と競争が厳しくなっている。とくに最近ではゲノム創薬やオーガメド医療などの全く新しい分野が確立しつつある。

そうした環境変化のなかで、第一製薬様は、製品在庫期間の短縮や決算処理のスピードアップなどの業務改善・構造改革を推進し、グローバル競争力を強化するため、1999年から「MINT (Mission INvestment Total System) プロジェクト」を発足させ、基幹業務システムの全面再構築の検討を開始した。

当時の基幹業務システムは、メインフレーム上で業務ごとに個別に構築してきたため、メンテナンスコストが増大していた。そこで、各業務システムを統合するERPツールとして、事実上医薬品業界の標準となっていた「SAP R/3」が選択された。

本稿では、第一製薬様のSAP導入プロジェクトについて、富士通から提供したソリューション（製品・サービス）にフォーカスして紹介する。

高性能・高信頼なPRIMEPOWERを選択

セントラルサーバの選択に当たっては、様々な角度から検討が重ねられ、富士通のハイエンドUNIXサーバ「PRIMEPOWER2000」が採用された。

一つ目のポイントは「柔軟性」である。SAP R/3システムを構築する場合、開発機・検証機・本番機でサーバをそれぞれ1台ずつ用意するのが一般的である。そこで、ドメイン生成（パーティショニング）機能やマルチユーザ環境に優れ、大規模システムのプラットフォームとして実績が豊富なSolarisオペレーティング環境を標準とするPRIMEPOWERならば、1台で複数台相当のサーバとして利用できる（図-1）。この点を第一製薬様から高く評価していただいた。

二つ目のポイントは「性能」である。SAP R/3の販売管理（SD）アプリケーションはかなりのCPUパワーが必要となる。そこで、第一製薬様における実際の業務環境を再現したベンチマークテストを行い、他社製ハイエンドサーバと比較したところ、PRIMEPOWERがほかも40%以上高速だった。

三つ目のポイントは「信頼性」である。ECC（メモリエラーなどの自動検知・訂正）機能を多重に装備したPRIMEPOWERならば、高額・複雑なクラスタ構成にしくても十分に安全性を確保できると第一製薬様に判断していただいた。実際に、本稼働開始以来トラブルは一度も起きていない。

各種ITソリューションを適用

医薬品という社会的に重要な製品を扱う業種だけに、無用なシステムダウンは絶対に許されない。そこで、当初よりシステムの社外設置を決めていた第一製薬様では、アウトソーサ各社のインフラやサービスを徹底的に調査した。その結果、セキュリティ対策や耐震性に優れた「富士通 館林システムセンタ」が選択された。また、SLA（Service Level Agreement）に対する富士通の積極的な取組みも高く評価していただいた。

SAP R/3をコアとしたシステム全体の運用管理・性能監視は、富士通の統合運用管理ソフトウェア「Systemwalker」が行っている。

日々のバックアップ業務は、富士通のディスクアレイ「ETERNUS GR700 series」のOPC（瞬時コピー）機能を活用し、業務運用停止時間を最小化している。

なお、ストレージ運用は、SSP（Storage Service Provider）方式で契約したことにより、初期導入コストの削減と将来のディスク増設時のスピードアップが図られている。

成功を支えた富士通のBASISメンバ

第一製薬様では、構造改革を全社に浸透させるために、できるだけ広い範囲での業務最適化が必要と考え、会計・生産・販売・物流などの主要業務をすべて一気に置き換える、いわゆる「ビッグバン導入」を採用した。

プロジェクトは、それぞれの業務ごとに異なるパートナー企業が担当し、富士通は「BASIS（ベースス）」と呼ばれる共通インフラストラクチャの分野を担当した。各パートナーが並行して進める作業を包括的にサポートしながら、わずか1年半という構築期間で全業務の一斉稼働

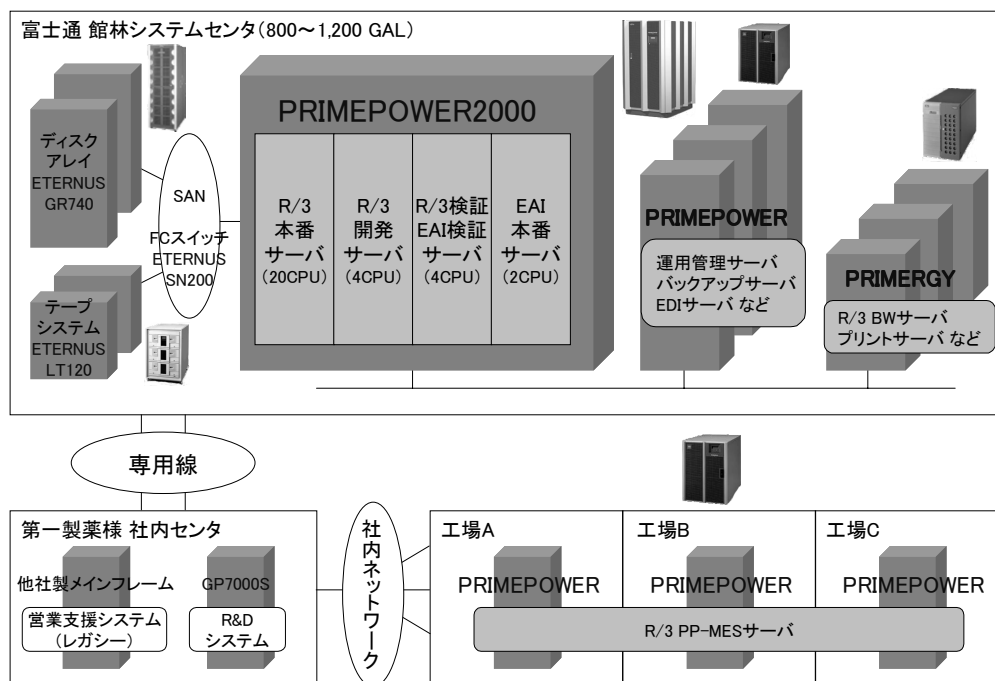


図-1 システム構成
Fig.1-System configuration.

実現に貢献した。

第一製薬様のシステムにおけるもう一つの大きな特長として、「生産実行システム（PP-MES）」と呼ばれるSAP R/3の新機能を世界に先駆けて導入した点が挙げられる。第一製薬様の推進チームが、このプロジェクトを独SAP本社の直轄プロジェクトへと押し上げ、精力的に適用作業に取り組まれる中、富士通のBASISメンバーも検証・構築面で活躍した。

む す び

本稿では、第一製薬様のSAP導入プロジェクトについて、富士通から提供したサーバ/ストレージ/ミドルウェア製品とBASISサービスの有効性にフォーカスして紹介した。

第一製薬様の最終的な目的であった業務改善・構造改革やグローバル競争力強化などに関する評価はまだ出ていないが、コスト的には「このオープンシステムをCOBOLで開発した場合、プログラムは約400～450万

ステップ、金額にすれば約100億円の規模になると試算していた。それをSAP R/3を適用したことで約40億円の予算で実現することができ、大成功だった」と第一製薬様は大変満足されている。

富士通は今後も、第一製薬様の新たなチャレンジをIT面から強力にサポートしていく。

SAP on PRIMEPOWER稼働中のお客様（参考）

- ・北陸電力様
（PRIMEPOWER2000）
- ・田辺製薬様
（PRIMEPOWER800）
- ・テュフ ラインランド ジャパン様
（PRIMEPOWER400）
- ・富士通サポートアンドサービス様
（PRIMEPOWER2000）

ほか